

「非認知能力を育てる夏休みに」

7月に入りました。夏季休業もまもなくです。夏季休業で「非認知能力」を育てることに取り組んでみませんか。一昨年度にも紹介しましたが、お茶の水女子大学教授、浜野 隆先生著の「子どもの才能を伸ばす最高の子育て」という本の中に書いてある内容をご覧ください。

まず、家庭環境を客観的に見る指標を紹介します。アメリカで開発されたチェックリストのようです。私も振り返ってみて「なるほど」と思う項目ばかりです。浜野先生は、「チェックがつかなかった項目があれば改善しましょう」とおっしゃっています。

- 家事などをしながら、子どもに話しかける
→家事や仕事をしている間にも、子どもを気にしている様子が伝わるように接する
- 子どもに本を読んだり絵を見せたりする ☆
→子どもとのかかわりを深めるだけでなく、新たな世界や知識を深める
- 父親も育児に参加している
→母親だけがかかわるのではなく、複数の大人とかかわる機会が大切
- 子どもの言動にすぐに反応する
→親がすぐに反応することで、子どもの情緒的な発達を促す
- 子どもに対して否定的な反応をしない
→にらみやしかめ面、舌打ちなどの否定的な反応は子どものストレスになる
- 子どもの表情や感情を言語化する
→「おいしいね」「楽しいね」などと、感情を言語化してコミュニケーションの発達を促す
- 子どもに対して笑顔などの豊かな表情を見せる
→表情は非言語コミュニケーションの好例。親が豊かな表情を見せることで、子どもは表情が豊かになる
- 毎日少なくとも1回は抱く ☆
→乳幼児期はとくにスキンシップが大切。親の愛情を感じやすくなり、愛着の形成が進む
- 単語でなく、文章にして話しかける
→文章のリズムになじむことで、言語の構成やニュアンスなどが学べる
- 親はいらだちや敵対心を見せない
→できるだけ否定的な感情が子どもに伝わらないように心がけることで、感情をコントロールすることを学ぶ機会になる



- 子どもの行為に過度な干渉や禁止をしない
→著しく反社会的な行為でない限り、禁止をしない。門限などの生活習慣に関するゆるやかなルールはOK

- 自分だけの本を1冊以上保有している
→親やきょうだいと共有ではなく、自分だけの本をもつ

- 週1回以上子どもと一緒に買い物に行く ☆
→様々な刺激と触れさせるために、スーパーなどを活用する

- 週4回以上散歩や公園などに一緒に行く ☆
→人との出会いが多い公園などで、様々な交流の機会を設ける

- 親、教師以外の大人との交流をもつ
→親戚や地域活動などで、普段はあまりかかわりのない大人と交流する

- 家の中が整頓されている
→適度に整頓されていて、安全が保たれている。過度な整頓で子どもの自由な遊びを制限しないように注意

- 保護者が外出するとき、子どもの面倒を見てくれる人がいる ☆
→祖父母や児童館など、外出時に子どもを預けられる人が決まっている

- 保育園や学校の先生と情報共有している
→お互いの暮らしの中での子どもの生活ぶりを共有できている

☆の項目は、乳幼児期や幼児期の内容だと思われるので、参考までにとお考え下さい。これらをすべて実践することは難しいと思いますが、少しでも心にとめてもらえるとよいのではと思っています。

この書の中の「非認知能力」を伸ばす「子育て10か条」を紹介します。

- 第1条 親子の間に対等な人間関係をつくること
- 第2条 親は子どもの安全基地になること
- 第3条 子どもに「勝ち負けの言葉」を使わない
- 第4条 子どもの言語や行動を共感的に受け止め、受け入れる
- 第5条 ほかに子どもとは比べず、その子自身が以前より進歩したときに承認し、ほめる
- 第6条 裁判官のように禁止や命令ではなく、「～したら？」と提案の形で「対策」を述べる
- 第7条 教師のように完璧な・詳細な・隙のない、説明や定義を述べ立てない
- 第8条 子ども自身に考える余地を残す働きかけをすること
- 第9条 親は「待つ」「見極める」「急がない」「急がせない」で、子どもがつまづいたときに支え、足場をかけ、子どもが一步踏み出せるように、わきから助けてあげる
- 第10条 子どもとともに暮らす幸せを味わおう

引用：「子どもの才能を伸ばす最高の子育て」 浜野 隆著 ソシム株式会社